



## はじまりは、いつも思い込み

---

結婚式を挙げるまで、世の中のカップルは幾度もの大喧嘩をすると聞く。神から与えられる2人にむけての試練とでも言うのだろうか。楽しいことを前に大いに悩むのは結構な悩みではないか、と結婚式を挙げる予定が当分無い私は考えていた。しかし、どうやら試練には色々な種類があるらしい。

2008年、リーマンショックにより、不動産業界は軒並み低迷を極めていた。交渉することなく、物件価格が百万単位で切り落とされていくのは日常茶飯事。毎週金曜日の日経新聞の折り込みチラシにやたらと多く含まれている物件広告の一つに、2000万値下げしているものを見つけたときは流石に日本の先行きを案じた。

そのころ、私たちは、とある物件に目をつけていた。すでに価格調整後で本体自体の値下げは提示されなかったが、代わりに価格はそのままで内装のオプション代金をサービスすると担当は言う。それなら本体価格を下げてくれという願いは届かなかった。経理上の問題にでもなるのか、と経理なんぞ知らない私はいらぬ詮索をしたりした。

リーマンショックが起こる前に企画されたその物件は、それはそれは贅沢の極みであった。本当に重箱の隅をつつくかのように細かなニーズを捕らえている。オプションの選択肢も幅広い。例えば、蛇口一つでも30種類から選べますよ、だとか。

これは、買いだ、と私たちは判断した。一つの問題を残して。オプション選択は1週間後が納期と知らされた。それからは膨大な資料やサンプルと格闘することになった。あーでもない、そーでもない。意見の言い合いはやがて互いの罵り合いになる。決まるわけがなかった。

物件に関してはお互いの希望や譲歩できない点など多くすり合わせていた。だけど、オプション選択に関しては期間が短すぎる。これを逃してはいい物件が去っていく。しかし、焦って変な選択はしたくない。結局、縁が無かったということで見送ることになった。悔しかったが、半ば安心した。もう揉めなくていいのだ、と。

その後、心と出逢った今のマンション。幸い、オプション選択という私がもうこりごりだと思っていた作業は無かった。人が成長していくように、家も成長していくものだと私は思う。だから、時間がたてば、内装だって気付けば自分好みになっていたという結果が後から付いてくるのだろう、タカをくくっていた。

## 緑、青、赤と灰色と

---

私は、少し頑丈なお菓子箱や、カラフルな包み紙、無料の英字新聞など捨てられないものが多い。m & mのパッケージが可愛いので捨てずにとっておいたら、彼に勝手に捨てられて本気で怒ったこともあるぐらいだ。だけど、私は、保管しておきたいけど、それをどこに収納すべきなのかまでは分からない。捨てられない、と一時保存BOXと名づけたBOXはあっという間に満杯になってしまう。あとで考えようと思って、テーブルの上に放置したままそのまま忘れることも多い。よく、モノに指定席を作ってあげましょう、というのが、その指定席は指定席ごと移動するのが常なのだ。

ある日、新宿で開催されたパントンギャラリーに行った。すっかりその影響を受けた私は、本気で家の中にもう1つの家を作ろうと考えた。

「だって、ダンボールハウス作ったことあるし」  
という私の自信を彼はもはや取り合ってくれなかった。

家に帰り着いて、すぐに私はその作業に取り掛かった。引越しで使ったダンボールはまだ業者に引き取ってもらっていないので、これを基礎にしようと考えた。デコレーションは、今まで集めてきたカラフルなものたち。今まで行き場を失っていたものたちが、私のミニハウスに集合することになる。

牛乳が好きな私は、牛乳パックもその一部にしようと考えた。牛乳パックのリサイクルは、中身を洗って切る必要がある。そのひと手間が面倒で、あとでいっぺんにやればいいのだと、私は、空の牛乳パックを冷蔵庫に戻す。そして、冷蔵庫の中には続々と空の牛乳パックが溢れ返っている。

私はそれらをすべて取り出した。ベランダで洗って乾かせば、すぐに使えると思ったのだが、ベランダまで持って行った後、友達から電話があった。私はミニハウスを作ることも、牛乳パックの存在も、すっかり忘れていた。

週末、彼がベランダで奇声をあげた。何事かと思って私は、恐ろしい物体を見た。炎天下のなか、牛乳パックの中身が見たことも無いような色とりどりの物体に支配されていた。

その場その場で、ちゃんとやること！と彼は私に言った。子供じゃないんだから、と。それでも私は、わざとやったわけではないのになあ、と呑気に考えていた。

## 彼はマジシャン？！

---

ある週末、彼は休日出勤だった。その日は雨が降っていたので私は家で過ごすことにした。帰宅した彼は、私の今日一日の行動をまるで見ていたかのように報告した。

食器はあとで洗おうとして先に、洗濯機を回したね、その後はざっと掃除機をかけた。でも、そこで力尽きたんだね。そのあとは、昼寝かな、そして、昼ごはんはカップラーメン。映画を見て雑誌を読んで、お菓子を食べてまた昼寝、ってな具合だろ、と。

シンクにはあとで洗おうと、水につけておいた食器が残っている。洗濯機は回したまま忘れていて、生臭くなっていた。掃除機は隅々まで掛けなかったからドアの後ろ側に埃がたまっていた。昼ごはんを食べたカップラーメンの残り汁はそのまま排水溝に流すのは水質浄化に負荷がかかると思って、少し塩辛かったけど全部飲み干した。そしてそのままサイドテーブルにおきっぱなしにしていた。録画していたバラエティを見終わった後は、DVDレコーダーの主電源を切るのを忘れていた。読みかけの数種類の雑誌は床に散らかったまま、寝ているところに彼が帰ってきたというわけだ。

なんできちんと最後までやらないのかね？と彼は尋ねたが、そもそも、私には最後までやるという力が不足しているようだ。しかし、いまいちそれが実感できない。そして、次は、きちんとやろうと思う決意ごと忘れるのだから、同道巡りだと私は思った。

## 伝わらない思い

---

キッチンには三角コーナーを置いていない。ディスポーザーがあるわけでもないのだが、三角コーナーは見た目が悪い。だから、私は、生ゴミは新聞紙に包んで捨てたり、調理中、切ったそばからビニール袋に入れてなるべくシンクを汚さないようにするつもりである。

とはいっても、大抵は後でまとめてやろう思考スイッチがONになり、野菜の切りくずはそのままシンクの中に落とされる。シンクの中が汚れるのが嫌なので、とりあえず、排水溝の蓋の中に押し込む。（受けザル？がついているので、排水溝に直接ゴミが流れることは無い）見た目はきれいなシンクになる。

彼は、私の行動を知っている。仕事から帰った後、排水溝の蓋を開ける。私は、「生ゴミは、水を切らないと駄目でしょ？だから、今、水を切ってるところなの」と自分の理論を説明するが、彼にとってはただの言い訳にしか聞こえないらしい。

本気でそう思っているのに、なんで分かってもらえないんだろう、と私は首をかしげる。

## ひっそりと進行するもの

---

トイレの臭いが気になるという人の割合は、その家庭の男性の人数と比例しているらしい。私は、自宅でほとんどトイレの臭いを感じたことが無い。ここ最近、男性は座って用を足す人も多いらしいので、彼もそうしてくれているのかもしれない。

ある日、金運が良くなるらしいと聞いて、私はトイレの掃除をすることにした。基本的には、TOTOのトルネード洗浄のおかげでぱっと見きれい。だけど、便座を挙げた瞬間、背筋が凍った。

以前は、便座カバーを使っていたが今は使っていない。便座カバーをただの装飾だと思っていた私は、せっかくのタンクレストイレに無駄なものはいらない、と思っていた。だから、衝撃を受けた。便座カバーが汚れ防止にもなっていたなんて。というよりむしろ、そちらの役割のほうが大きいのだろうか。

目に見える部分だけでも手がいっぱいなのに、ひっそりと汚れを蓄積していく隠れた場所がある。私は、そこにまで意識を向けなければならないのだと感じて途方にふてしまった。

## 振り返りたくない過去

---

彼と付き合い始めて数年が立ち、ふと、過去の写真を見たくなかった。そこで、引越しのときにひとまとめにしておいた写真やアルバムが入ったままのダンボールをクローゼットから引き出した。

引越しからそんなに日は経過していないが、うっすらと綿ホコリが表面を覆っていた。でも、私は特に気にはしなかった。むしろ、となりのトトロに出てくるような、「まっくろくろすけ」でないことが残念だった。さっとホコリを掃って過去の思い出に浸り始めた。

スクラックブッキングに憧れて、挫折した大事なハワイ旅行の写真もそこにあった。写真は、一部曲がったり、変形したり、最悪なことに、写真同士がくっついていたりしていた。私は、笑顔の写った写真を私は複雑な思いで見つめた。

ぼんやり考えながらも、その写真たちはそのまま蓋をしてまたクローゼットの奥に追いやった。

## 意識しないと変わらない

---

私はいつものようにソファーに横になりながら、手の届く範囲に牛乳とお菓子を置いてぼーっとしていた。

内装がきれいな家は、どこも整理整頓が行き届いていた。実家もそうだ。母親が、いつも掃除していた。私が脱ぎ散らかした洋服は、いつの間にか消えていた（もちろん、毎回注意されていた）。バスケットゴールに向かいシュートを決めるかのように、ゴミ箱めがけてゴミを投げていたのでゴミ箱の周りまでもゴミ箱になっていた。それも、そのたびに注意されたが、後でやるから、と私は言っていた。

母親は、同棲する彼に対して同情していた。私は、きちんとやりなさい、と何度も母親に窘められた。

他人と生活するのは難しい。同じ生活習慣で暮らしてきたわけではないから、無条件で愛してくれる親とは違い、愛を育む努力が必要らしい。そして、それには、お互いが、譲歩しながら、思いやりをもって生活することが一番の栄養剤だと身にしみて実感してきた。

こうしたい、ああしたい、以前に、やらなければならない基礎固めがある。その基礎固めを通り越して、私は自分のお気に入りを見つけることを優先させていた。好きなものを集めただけなんですよー、という人だって、その好きなものの基準にどこかしらテーマがあるものだと、私はようやく気付いた。

家と共に成長する、というのは、意識してこそ初めてそのスタートラインに立てるものなのだと痛感した。



二次審査に向けて応援お願いします！

---

そんなわけで、意識革命を起こそうと私は、[楽しく！安く！簡単リフォーム！カベガミヤホン](#)  
[ポ](#)さん主催のお家まるごとリフォームコンテストに応募しました。

そして、無事一次審査を通過しました。

これから、二次審査に向けてセルフリフォームを行っていきます。

これから約1ヶ月半ほど、「ど素人」の私が行う、力いっぱいセルフリフォームをどうぞ応援  
くださいませ。

応援メッセージは[こちら](#)から受け付けています。（楽天のコンテスト開催ページにリンクしてい  
ます）

なお、実際の施工様子は、[ブログ](#)にてUPしていきます。本当に分からないことが多いので、  
リフォーム経験をお持ちの方からのアドバイス、また、リフォームしたことの無い方からのメ  
ッセージやもちろん、このコンテストに応募するきっかけとなったエッセイに登場している私自  
身への応援メッセージも頂ければ嬉しいです。

グランプリを目指すぞー！！！！